

Twitter 使用における個人情報の漏洩を防ぐシステムについて

清水 裕梨

本研究は、大学生の間で最も多用されているソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service, 以下 SNS) である Twitter における個人情報の漏洩を防ぐシステムの開発及びその効果を明らかにすることを目的とするものである。

現在、多くの若者たちはスマートフォンを持ち、SNS を好んで利用しているが、その一方で、Twitter のような「オープン」な SNS を利用する際の個人情報漏洩によるインターネットトラブルが社会問題になっている。

この問題を解決するために、本研究ではまず、大学生を対象に、各種 SNS の利用状況、個人情報の公開状況及び公開すべき個人情報に対する意識について質問紙調査を実施した。104 名を対象に分析した結果、Twitter はオープンな SNS の中で最も利用されており、所属・写真・位置情報といった項目について、大学生は公開すべきでないと考えているにも関わらず、無意識に投稿している可能性があることがわかった。この結果に基づき、所属・写真・位置情報といった個人情報を含めた投稿が行われた際に、警告メッセージを表示し、また、投稿にタイムラグをつけることによって投稿者に再確認する時間を設けるといった、警告メッセージ・予約投稿機能を備えたシステムを開発した。

開発したシステムの評価のために、10 名を対象に評価実験を行ったところ、実験前後の個人情報に対する意識において、特に実験前に意識が低かった者、つまりもともと個人情報を無意識に公開しがちな者に対して、特に実験後に意識の改善が見られた。また、実験後の意識得点と実験参加者に評価してもらったシステムの有用性に相関が見られたことから、実験後に個人情報に対する意識が低かった者についても、システムの有用性に対しては評価をし、実感をしていることがわかった。さらに、本システムは、フォロワーとの関係を「友達」、「知り合い」を主とするユーザに対して効果的であり、彼らにおいては、名前や所属、地名など、もともとユーザが公開したことのある項目において、特に意識の改善が見られた。一方で、「知らない人」を主にフォロワーに持つユーザにおいては、あまり意識改善が見られなかった。これは、「知らない人」を相手に匿名性の高い利用をしており、個人情報を公開しても自身の特定が難しいと考えられるためであると考えられ、こういったケースの個人情報漏洩について更なる検討が必要であることが示された。

(指導教員 叶 少瑜)